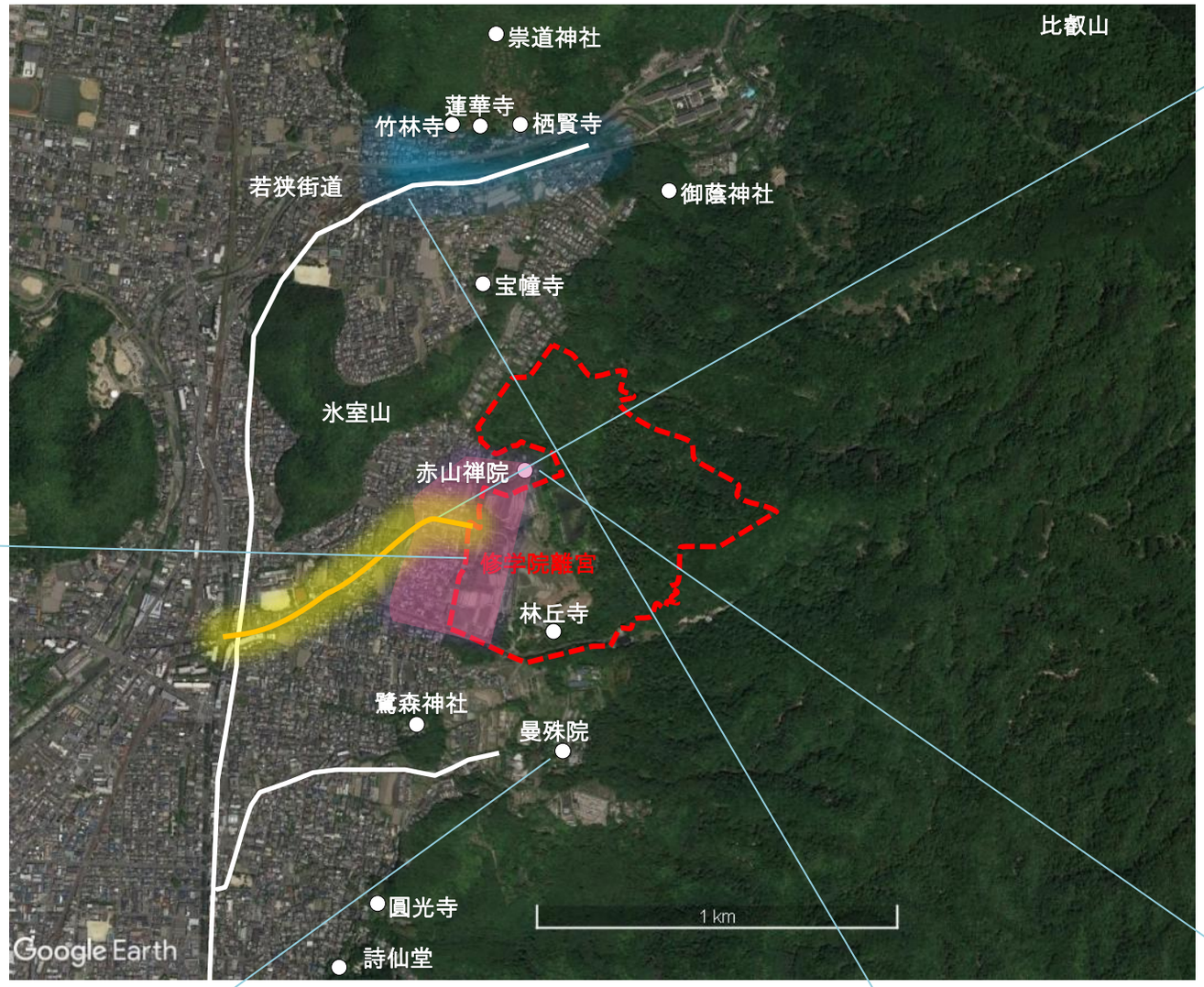
# 修学院離宮周辺エリア

## ～曼殊院・赤山禅院・高野・一乗寺～

### エリア概要

- 修学院・一乗寺地域では、東山の稜線を構成し、里山として住民と深く関わってきた瓜生山などの山地部、さらに、それらの山ろく部に赤山禅院、曼殊院、鷺森神社、詩仙堂、円光寺などの古社寺を擁し、修学院離宮を中心とする山すそ型の地域を形成している。
- 後背の比叡山、横山を含む修学院離宮の豊かな緑が一つの風景になっている。社寺境内地の樹林や屋敷周りの生垣や庭木も豊かで、一般住宅地の庭木と共に、緑豊かな住環境となっている。

視点場（境内）
特に着目する通り
（白線）　エリアの主な通り




### 修学院離宮

朝廷と幕府の対立のなかで譲位した後水尾天皇は、洛北に別業をもとめて御幸を重ねたすえに、修学院を離宮の地と定めた。 江戸時代初期の代表的山荘である。[1)]

庭園だけでなく、棚田や山稜、京都盆地など自然に包まれながら眺望全体を感じる独特の世界観でつくられた離宮である。

修学院離宮内の田園風景

敷地内からは市街地が一望できる。

敷地内から市街地への眺め

### 修学院離宮周辺

室町時代後期にはすでに村が形成されていたようである。[3)]
現在は、修学院離宮に通じる道沿いに、農家の名残をとどめる家が点在し、農地が広がっているところもある。

周辺の町並み

農地

### 曼殊院

修学院離宮の南に位置する天台宗の門跡寺院である。曼殊院へ通じる道沿いには、蔵や農家の名残をとどめる家が点在している。

### 上高野周辺

室町時代後期にはすでに村が形成されていたようである。[2)]
　蓮華寺や崇道神社の周りには用水を活用した旧集落が落ち着いたたたずまいを示し、質の高い風致特性を有しており、軒下を流れ、農業用水として利用されている水量豊かな小川が美しい景観を構成し、民家では庭付きの伝統的な形式を保っている

高野村の町並み

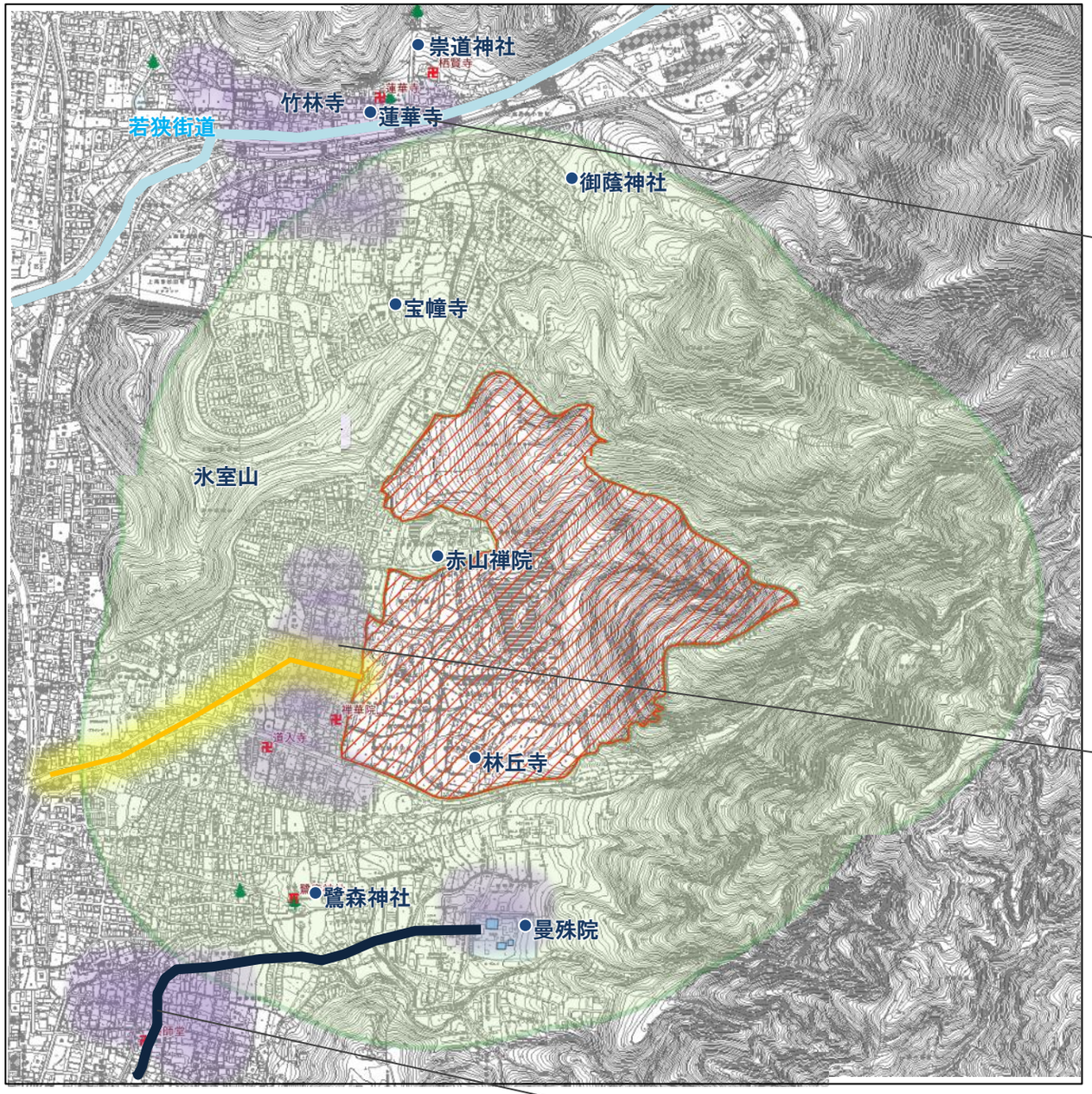
崇道神社

栖賢寺

### 赤山禅院

修学院離宮の北にあり、比叡山延暦寺の別院。修学院離宮を中心とする山すそ型の景観を形成している。

# エリアの概要




※　詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

## 高野村

高野の地名は平安京造営以来この地が朝廷の狩猟の場となり鷹野とよばれたことによるという。[4)]

　室町時代後期にはすでに村が形成されていたようで、江戸時代中期においては、高野村は村高八百石がすべて禁裏御料であった。[5)]
比叡山を望むことができ、谷あいの道で高野川の清流を見下ろしながら、蓮華寺を見ることができる。[6)]蓮華寺や崇道神社の周りには用水を活用した旧集落が落ち着いたたたずまいを示し、質の高い風致特性を有しており、軒下を流れ、農業用水として利用されている水量豊かな小川が美しい景観を構成し、民家では庭付きの伝統的な形式を保っている

栖賢寺

蓮華寺

高野村の町並み

崇道神社

## 修学院村

修学院は寺院名に由来する地名であり、地名の源になった修学院（廃寺）が創建されたのは平安時代のことである。[7)]
修学院離宮は、後水尾天皇による江戸時代初期の代表的山荘である。[8)]
室町時代後期にはすでに村が形成されていたようで、江戸時代中期においては、禁裏御料及び仙洞御料・林丘寺領となった。[9)]
現在は、修学院離宮に通じる道沿いに、農家の名残をとどめる家が点在し、農地が広がっているところもある。

農地

門前の町並み

## 一乗寺村

一乗寺は寺院名に由来する地名であり、地名の源になった一乗寺（廃寺）が創建されたのは平安時代のことである。[10)]
　室町時代後期においては、すでに村が形成されていたようで、江戸時代中期においては、一乗寺村は曼殊院宮領はじめ公家・寺社あわせて３１の領主をかかえる村であった。[11)]
　曼殊院へ通じる道沿いには、湯豆腐屋や漬物や、喫茶店が並ぶ他、蔵や農家の名残をとどめる家が点在している。

曼殊院に続く道の町並み

【凡例】
- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域
- 特に着目する通り
- 明治25年以前から存在する市街地
- 界わい景観整備地区

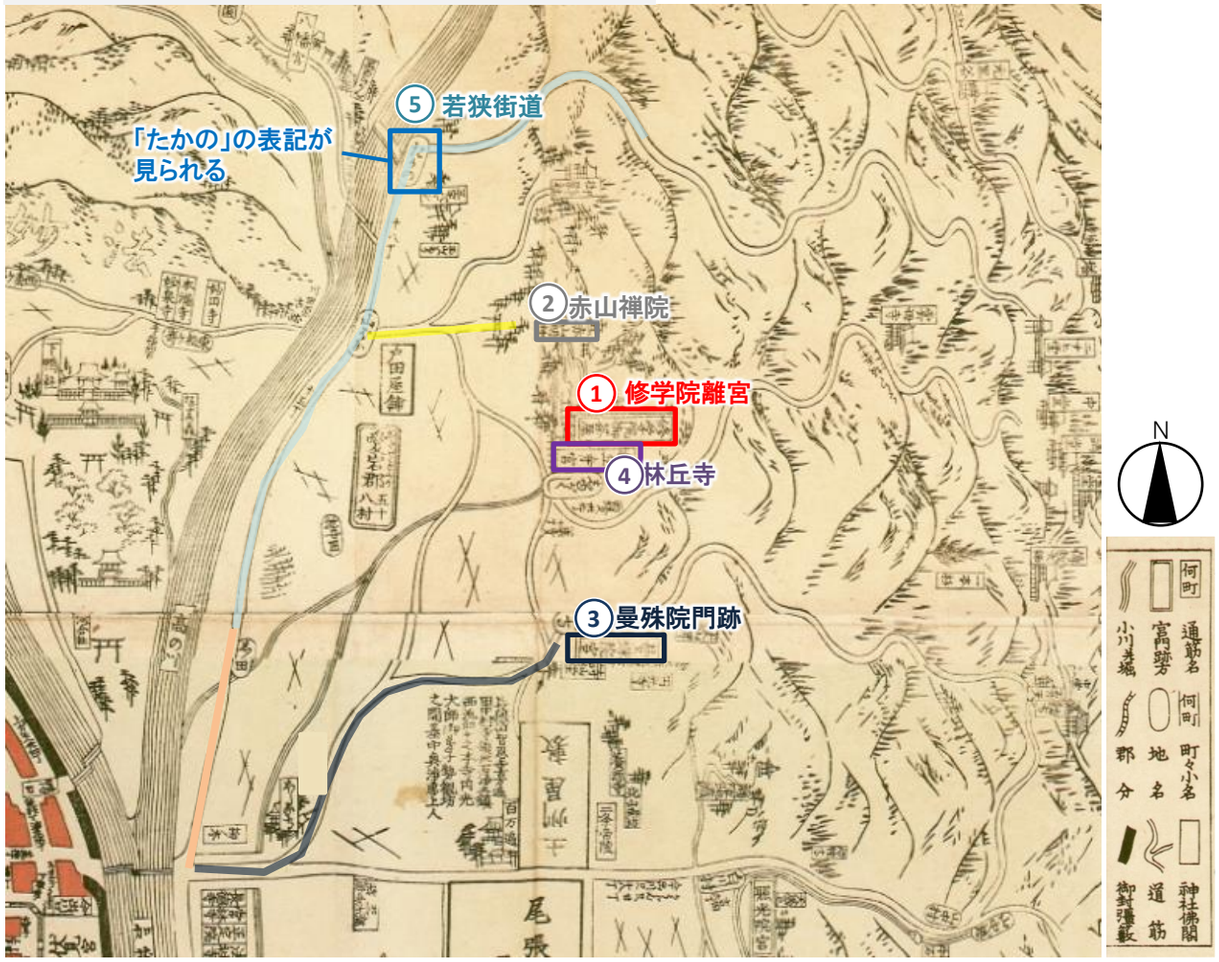
建造物・庭園
- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）
- 国土地理院社寺データ等　※

樹木
- 天然記念物
- 保存樹
- ・区民の誇りの木

※　国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

# エリアの土地利用の変遷（1）

**明治2年（1869年）（上地政策による境内地減少前）**




京町御絵図（明治2年）

修学院、一乗寺はともに寺院名に由来する地名であり、高野は平安京建営以来この地が朝廷の狩猟の場となり鷹野とよばれたことによるという。地名の源になった一乗寺（廃寺）と修学寺（廃寺）が創建されたのは平安時代のことである。

当地は、比叡山東麓の琵琶湖岸の坂本に対して西坂本ともよばれており、延暦寺との深いつながりとともに、琵琶湖と京都を結ぶ道（白鳥越）の玄関口にもあたる交通の要地でもある。[12)]

### ○ 一乗寺（廃寺）

康平６年（１０６３）に一条天皇の皇后上東門院が創建したといわれるが、実はそれ以前から園城寺の子孫として存続しているので、上東門院より寺院として整備されたのであろう。しかし、延暦寺と園城寺の抗争や戦乱で廃絶した。[13)]

### ○ 修学院（廃寺）

修学院は播磨守差佐伯公行が勝算を開山として建立した寺で、のち一条天皇によって官寺に列せられた。しかし、延暦寺と園城寺の抗争や戦乱で廃絶した。[14)]

### ① 修学院離宮

朝廷と幕府の対立のなかで譲位した後水尾天皇は、洛北に別業をもとめて御幸を重ねたすえに、修学院を離宮の地と定めた。[15)]

江戸時代初期の代表的山荘である。[16)]

### ② 赤山禅院

平安時代において、南淵年名の山荘（小野山荘）では我が国最初の尚歯会が開かれ、この山荘はのちに赤山禅院となった。[17)]

### ③ 曼殊院門跡

上皇の猶子良尚法親王は、離宮の近くに門跡寺院である曼殊院を移建した。[18)]

### ④ 林丘寺

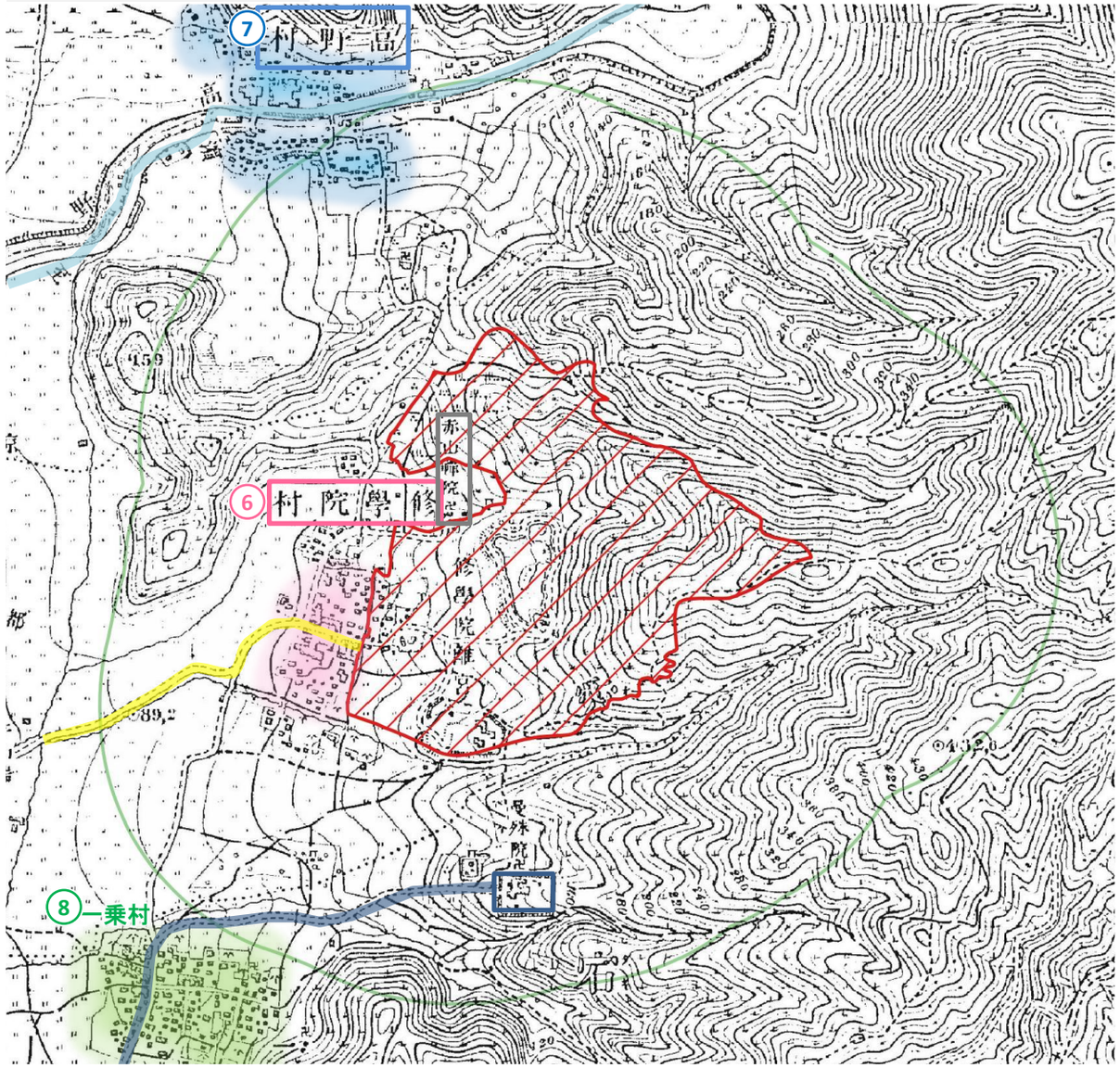
寺の前身は後水尾天皇の第八皇女朱宮光子内親王の朱宮御所である。延宝八年（１６８０）御所を林丘寺と改めた。天和２年（１６８２）本堂が建立された。しかし幕末には荒廃し、明治初年には天龍寺派となり、尼門跡に復した。[19)]

### ⑤ 若狭街道

この道は、京都から近江・若狭へと至る主要道路で、平安京造営以来の古道と考えられる。この街道は、少なくとも江戸時代には、通常、若狭への最も一般的な道として位置付けられていたことが知られる。[20)]

# エリアの土地利用の変遷（2）

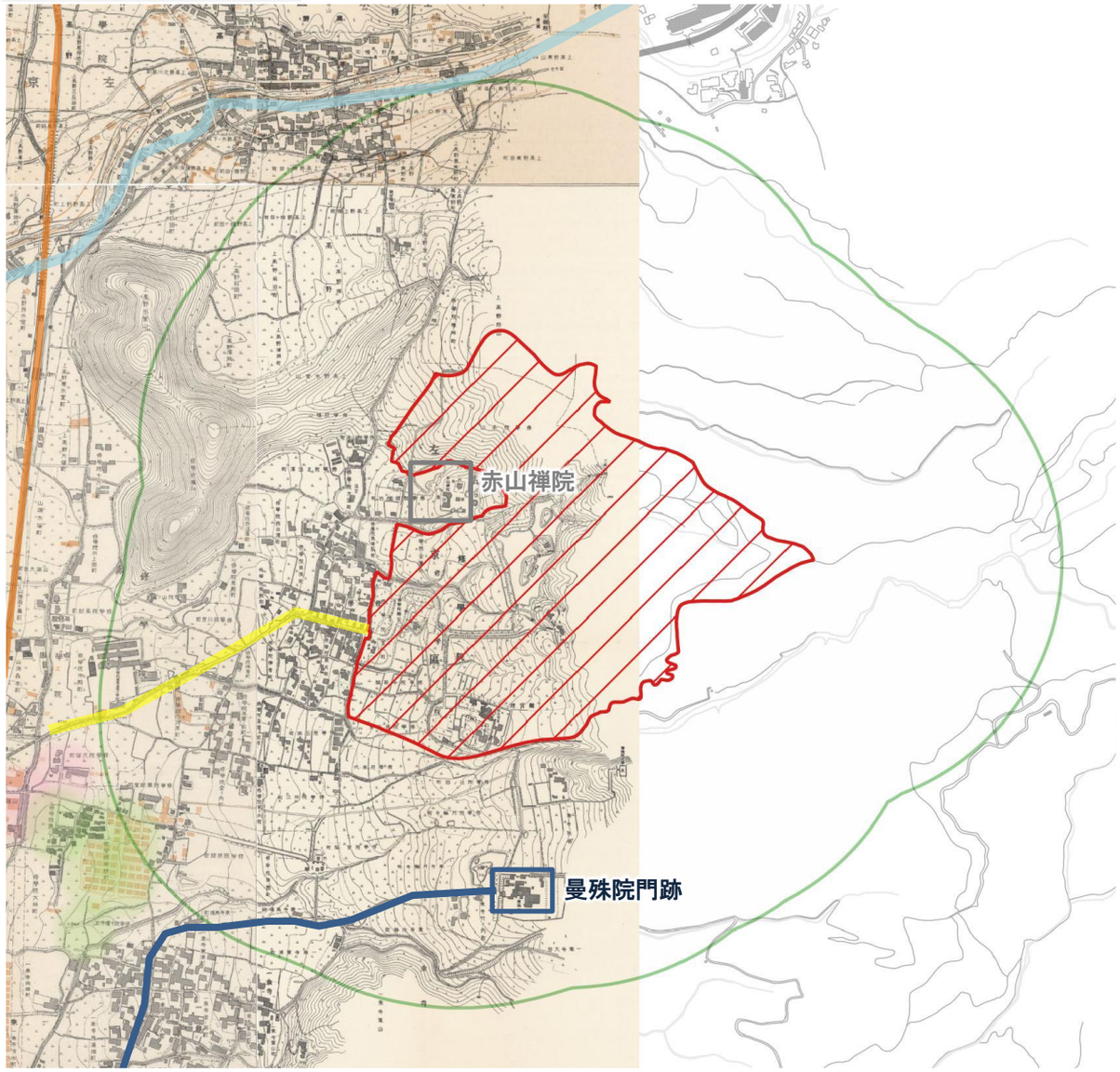
明治25年（1892年）




近景デザイン保全区域　特に着目する通り
視点場（境内）

資料：仮製地形図(明治中期)(国土地理院所蔵)
画像：立命館大学アート･リサーチセンター

昭和28年（1953年）




昭和10年都市計画図の内容
昭和28年の修正測図

資料：京都市都市計画基本図(昭和28年)
（京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号)）
画像：立命館大学アート･リサーチセンター

⑥ 修学院村

室町時代後期には、寺の名前が地名（村名）として史料に現れてくるようになり、このころにはすでに村が形成されていたことがわかる。江戸時代中期においては、村高八百七十二石余が禁裏御料及び仙洞御料・林丘寺領に分割された。[21]

⑦ 高野村

室町時代後期においては、修学院と同じく、室町時代後期にはこれらの地名（村名）が史料に現れてくる。江戸時代中期においては、高野村は村高八百石がすべて禁裏御料であった。[22]

⑧ 一乗寺（廃寺）村

室町時代後期においては、修学院と同じく、室町時代後期にはこれらの地名（村名）が史料に現れてくる。江戸時代中期においては、一乗寺（廃寺）村は村高千八百六十四石余が曼殊院宮領はじめ公家・寺社あわせて３１の領主をかかえる村であった。[23]

修学院村・高野村・一乗寺村

明治維新によって、村は収公されて京都府の直轄となった。

近代における３つの村は、近郊農村の例にもれず都市化が進行した。とくに大正１４年に京都電燈叡山電鉄（現京福電鉄叡山本線）が開通したことでいっそう拍車がかかり、現在は住宅地として発展している。[24]

左記三村

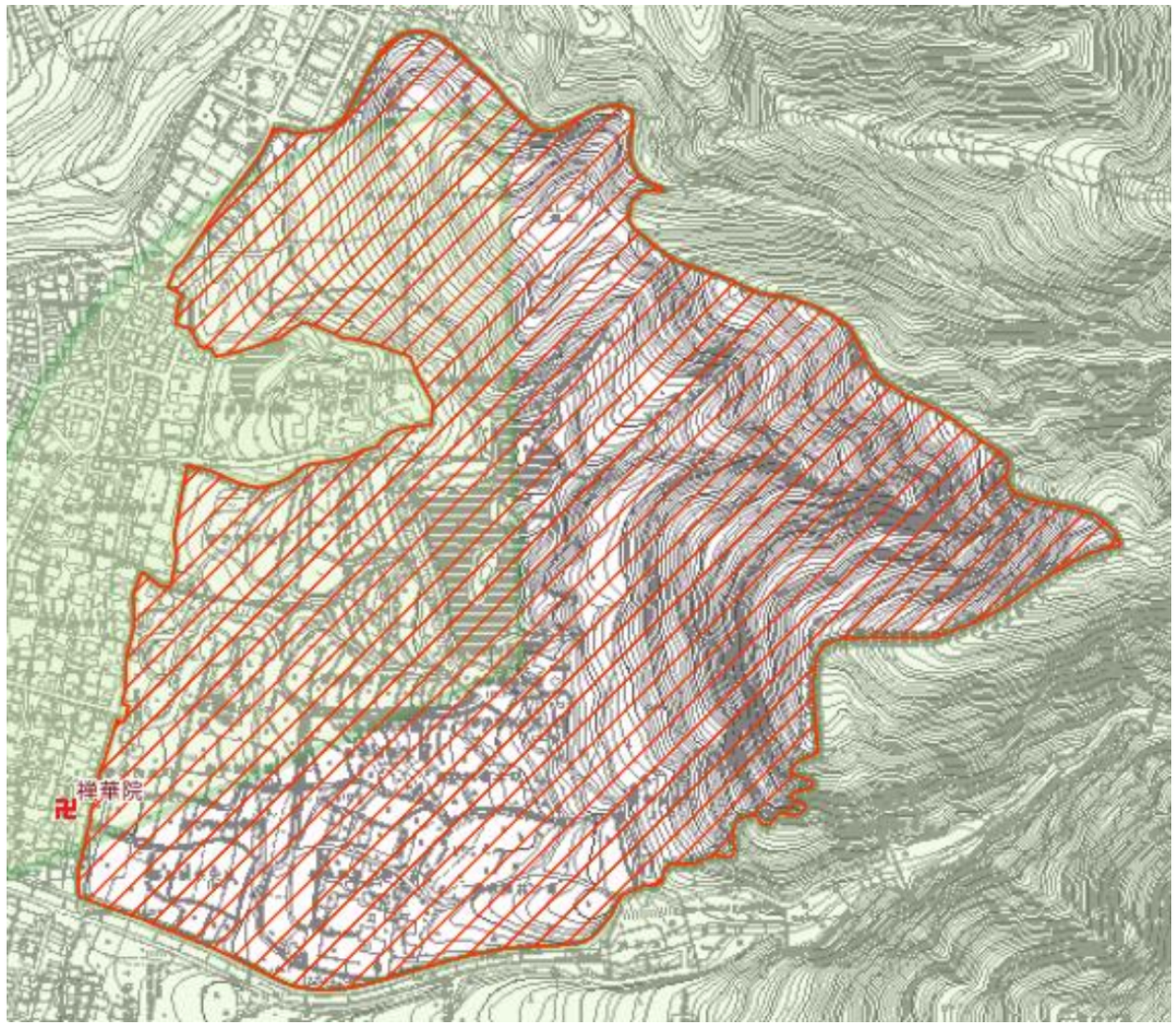
左記のこうした禁裏御料を中心とした所領の配置には、京都に近いという当地区の位置と、後水尾上皇の離宮造営といった政治の動きもからんでいる。

その後、明治維新によって、全村収公されて京都府の直轄となった。明治１７年に三村連合長役場となり、同２２年の地町村制施行で修学院村戸長役場が正式に発足した。[25]

# 修学院離宮境内の歴史的資産と守っていきたい眺め

## 修学院離宮

桂離宮と並ぶ江戸初期の代表的山荘。後水尾上皇の造営で、左京区修学院にある。寛永6年（1629）退位した上皇は、洛北の地に広大な山荘造営を企図。当地には以前から隣雲亭があったが、明暦元年（1655）3月東福門院と、この近くに住む円照寺尼宮（上皇の第一皇女）の草庵に御幸した際、改めてそのすぐれた風光に魅せられ、翌2年から大規模な山荘造営に着工。万治2年（1659）春には一応の完成をみた。これが現在の上の茶屋と下の茶屋にあたる。上の茶屋は隣雲亭を中心に計画し、比叡山から流れ出る音羽川の渓流を土堰堤（えんてい）でせき止め、広大な苑池（浴龍池）と中島をつくった。池の周囲は常緑樹を植えて大刈込とし、中島には宝形造の茶亭窮邃亭（きゅうすいてい）が建つ。また。池には中島に渡る楓橋・土橋、中島と万松塢（ばんしょううう/大きな2個の石をいただく島）を結ぶ千歳橋を架ける。上の茶屋の隣雲亭からは、遠く鞍馬・貴船・岩倉・松ケ崎・愛宕の山々を背景に、京都の市街が一望できる。一方、山麓に営まれた下の茶屋は、上皇が御幸の際に御座所とした数寄屋風書院造の寿月観を中心に、茶室蔵六庵・御清所（台所）などの付属建物を配した。中の茶屋は楽只軒・客殿などからなる。楽只軒は寛文8年（1668）上皇が皇女朱宮光子内親王の御所として下の茶屋の南隣に造営。客殿は東福門院奥御対面所を天和2年（1682）に移建。これらの建物は上皇の崩御、朱宮内親王の出家後、林丘寺（寛文3年創立）に納められたが、明治18年林丘寺門跡から宮内省に返還。これを機に修学院離宮に組み込み、中の茶屋とした。客殿は華麗優美な意匠でまとめられ、床脇の五段の違棚（霞棚）は桂離宮・醍醐三宝院の棚とともに天下の三棚と称される。[26)]




※　詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

建造物・庭園

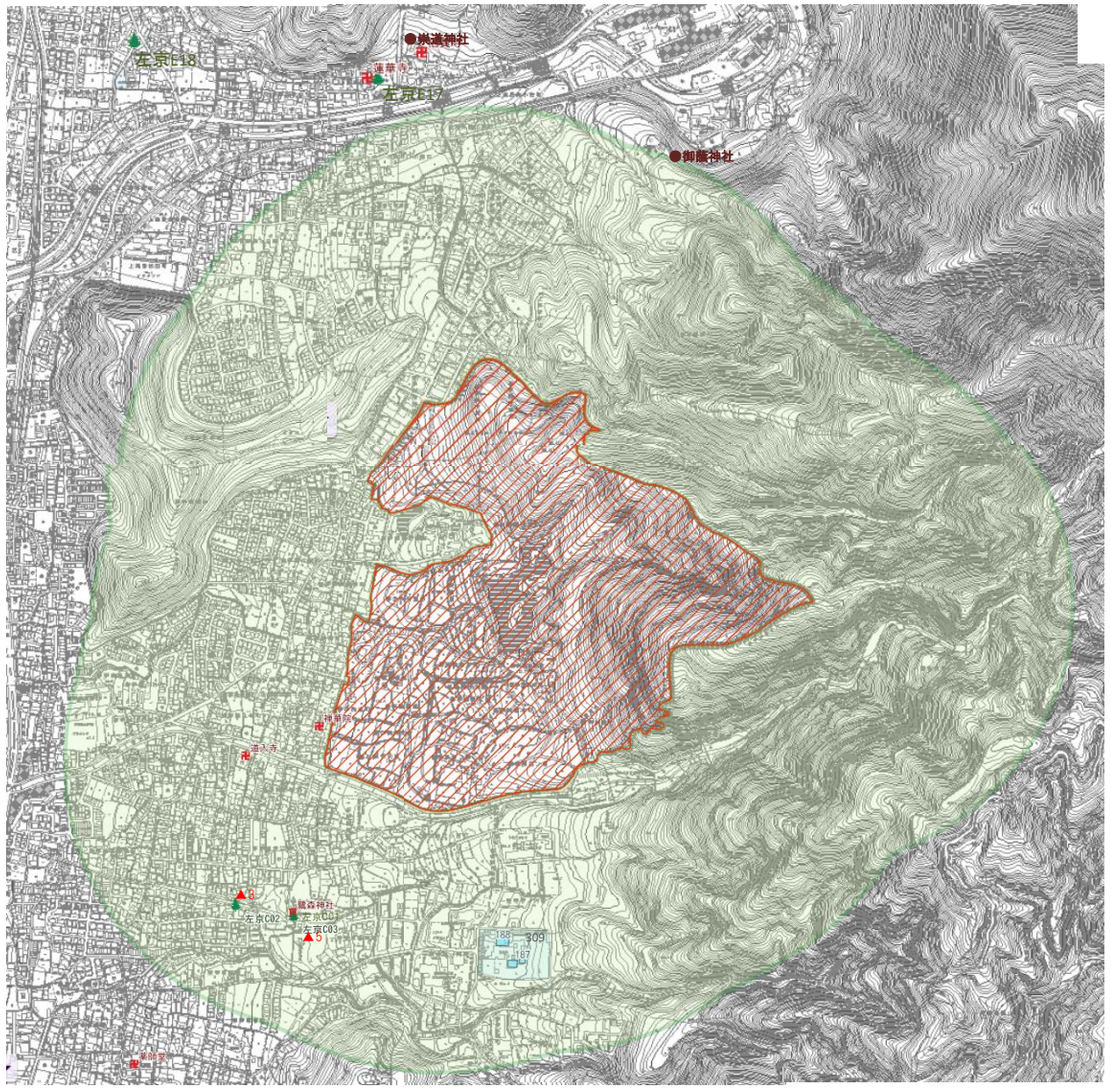
- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）
- 国土地理院社寺データ等　※

樹木

- 天然記念物
- 保存樹・区民の誇りの木

※　国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

# 修学院離宮周辺の歴史的資産




※　詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

建造物・庭園

- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）
- 国土地理院社寺データ等　※

樹木

- 天然記念物
- 保存樹・区民の誇りの木

※　国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

## ■　曼殊院

［重要文化財（本堂等）、国指定名勝（庭園）］

比叡山の南西麓、修学院離宮の南に位置する天台宗の門跡寺院。竹内門跡とも称する。本尊阿弥陀如来。寺伝によれば、延暦年間（782-806）最澄が比叡山上に一宇を創立し、以後円仁・安恵・最延・玄鑒・覚恵・慈恵・是算と継承され、是算の代に比叡山西塔北谷に移り東尾坊と号したのが寺基の始まりという。
修学院離宮の南に位置し、南西方に詩仙堂がある。狩野探幽筆の障壁画、国指定名勝の庭園などで知られ、国宝の「古今和歌集」を蔵する。[27)]

本堂※２
重文

書院※1
重文

庫裏
K342/重文

## ■　鷺森神社

［天然記念物（ヤマザクラ等）］

※2

「修学寺の天王」（雍洲府志）とも称した。祭神は素戔嗚尊、神号は鬚咫天王。かつての比叡山麓の七里、一乗寺・豊楽寺、藪里（現一乗寺）・修学寺（現修学院）・山端・高野（現上高野）・大原（以上現左京区）の産土神の一つで（諸国図解年中行事大成）、牛頭天王が本来の祭神であった（雍洲府志）。社殿によれば貞観年間（859-877）の創建で神使とされた鷺（さぎ）がこの森に群集していたところから鷺森の名がついたという。また初めは赤山禅院（現左京区）の辺りにあったが、応仁の乱の兵火で今の修学院離宮（現同区）の山林中に移り、さらに離宮造営に伴い現在地に移ったと伝える。[28)]

### イロハモミジ　左京C01

［区民の誇りの木］

鷺森神社の名は、神社の森に神の使いとされるサギが群集していたことに由来します。１７７５年に改修された記録があり、参道も同じ頃に整備されました。このモミジも長い歴史にわたって植え継がれてきたようです。

### ヤマザクラ　▲3/左京C02

［天然記念物、区民の誇りの木］

参道にあるヤマザクラで、直径が１ｍほどある大木です。

### スギ　▲5/左京C03

［天然記念物、区民の誇りの木］

本殿の前にある大スギで、神社の神木となっています。

※1：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）
※2：（写真提供）京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

# 修学院離宮周辺の歴史的資産

## ■ 林丘寺

※

修学院離宮中の茶屋の東に接する。聖明山と号する単立（臨済系）の尼門跡寺。寺の前身は後水尾天皇の第八皇女朱宮光子内親王の朱宮御所（音羽御所）。照山元瑶と号し、御所を林丘寺と改めた（「本朝皇胤紹運録」延宝8年8月19日条）。寺名は境内丘陵に松杉が生茂っていたことにちなむという（北肉魚山行記）。天和2年（1682）本堂が建立され、また後水尾院の中宮東福門院の御所より奥御対面所、御茶之間の二宇が移され、しだいに整備されていった（「東福門院様御旧図指図」林丘寺蔵）。
同19年に現在の地へ玄関・書院・庫裏等を写し（「林丘寺指図」林丘寺蔵）、もとの尼門跡に復した。旧地に残した客殿・楽只軒・門は現在、修学院離宮の中の茶屋を構成する。[29]

## ■ 赤山禅院

修学院離宮の北にあり、比叡山延暦寺の別院。天台宗。赤山明神を祀り、赤山明神社・赤山大明神ともいう。創建は仁和4年（888）。大納言南淵年名の山荘であったのを安慧が仁和4年に赤山明神（唐名は泰山府君）をこの地に勧請、比叡山東麓の近江日吉社とともに天台の鎮守社としたものである。当地は京の北東表鬼門にあたり方除けの神としても信仰も厚く、陰陽道の泰山府君祭の流行に伴い疫病・災除けの神としても崇敬された。近世には商売擁護の神として一般の信仰をも集め懸寄神とも称せられる。[30]

## ■ 御蔭神社

比叡山北西麓、御蔭山にある。京都賀茂御祖社（下鴨社）の境外摂社。祭神は賀茂建角身命・玉依日売命。御蔭山を別に御生山と称するが、下鴨社の祭神賀茂建角身命の女多多須玉依姫が別雷神（上賀茂社の祭神）を産んだところといわれ、別雷神誕生の話は「山城国風土記」逸文に記されている。[31]

## ■ 崇道神社

※

桓武天皇の皇太弟早良親王を祀り、社伝では貞観年間（859-877）の創建という。旧村社。早良親王は友桓武勢力の中心と目され、延暦4年（785）長岡京で起こった藤原種継暗殺事件に連座、捕らえられて乙訓寺（現京都府長岡京市）に幽閉されたが飲食を拒みついに憤死した（「日本紀略」延暦4年9月28日条）。屍は淡路島（現兵庫県）に葬られたが御霊となって多くの不幸をもたらしたため、桓武天皇は早良親王に崇道天皇の追号を贈り、墓を山陵として怨霊をしずめようとした（「日本紀略」延暦19年7月23日条）。
崇道神社は平安時代の御霊信仰のなかで登場するが、高野御霊ともよばれ江戸時代の高野村の産土神でもあり、3月5日（現在は5月5日）に祭礼が行われる。[32]

## ■ 圓光寺

左京区一乗寺小谷町にある臨済宗南禅寺派の尼寺。瑞巌山と号す。本尊千手観音。慶長六年（1601）徳川家康が足利学校の僧閑室元佶を招き、伏見指月に創建。俗に洛陽学校と称した。国内数学の拠点として多くの朝鮮文書や木製活字を所蔵、圓光寺版（伏見版）と呼ぶ図書を出版。のち上京の相国寺山内に移転、寛文七年（1667）徳川氏が現在地に移し、南禅寺末となる。明治維新で荒廃し、のち南嶺尼が尼僧の専門道場として再興。絹本著色玄（元）桔和尚像・紙本墨画竹図屏風（円山応挙筆。いずれも重要文化財）を所蔵。[33]

※：（写真提供）京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

# 景観の特性と形成方針（京都市景観計画　抜粋・要約）

## 比叡山風致地区

【概況】

当地区は、上高野地域、修学院・一乗寺地域及び北白川地域から構成され、後背の比叡山と修学院横山を含む修学院離宮の豊かな緑が一つの風景になり、社寺境内地の樹林や屋敷周りの生垣や庭木も豊かで、一般住宅地の庭木とともに、緑豊かな住環境となっている。
また、白川砂採取の跡、ゴルフ練習場や大学等の開発が見られるが、市街化調整区域の山林は、全体としてよく保全されている。

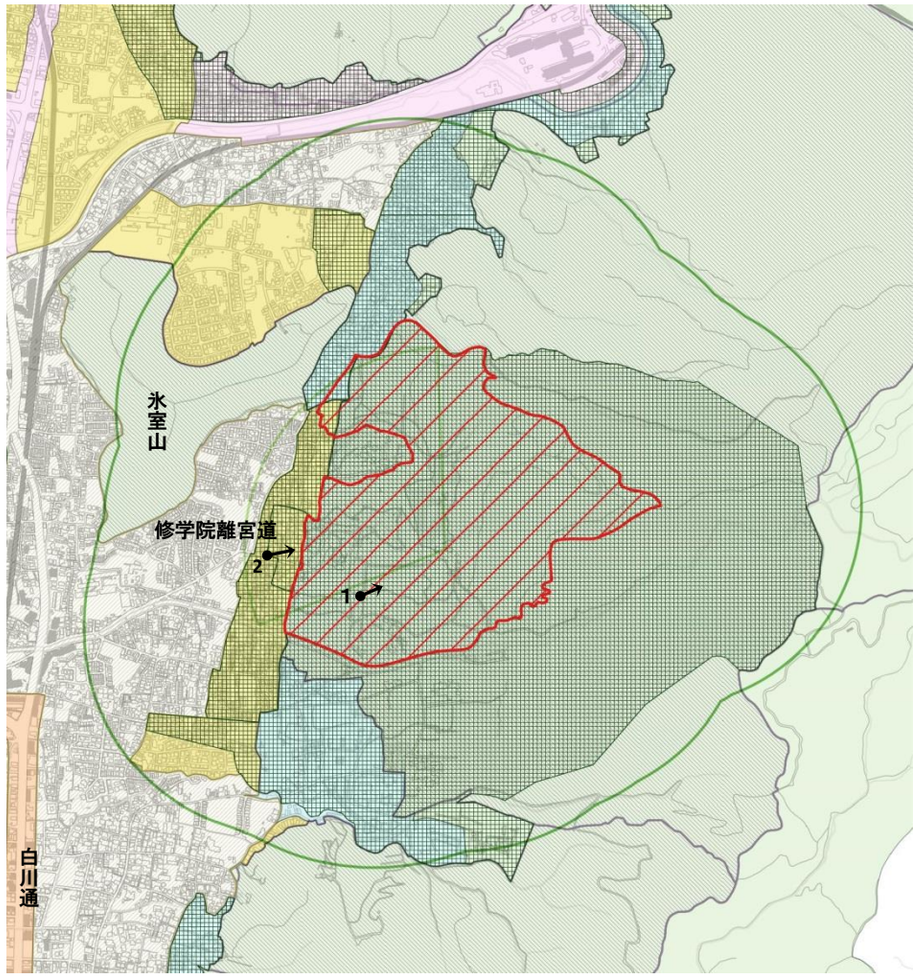
1）修学院離宮の豊かな緑

2）修学院離宮周辺の宅地

【良好な景観の形成に関する方針】

●修学院離宮、鷺森神社、円光寺、詩仙堂周辺の門前景観

修学院離宮門前集落や円光寺、詩仙堂前の集落については、伝統的な集落景観の維持を図り、鷺森神社参道については参道景観の整備を図る。




【凡例】

眺望景観保全区域
- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

風致地区
- 風致地区第1種地域
- 風致地区第2種地域
- 風致地区第3種地域
- 風致地区第4種地域
- 風致地区第5種地域
- 風致特別修景地区

建造物修景地区
- 山ろく型建造物修景地区
- 山並み背景型建造物修景地区
- 岸辺型建造物修景地区
- 町並み型建造物修景地区

その他
- 伝統的建造物群保存地区
- 歴史的風土保存地区
- 歴史的風土特別保存区域

景観地区
- 山ろく型美観地区
- 山並み背景型美観地区
- 岸辺型美観地区
- 旧市街地型美観地区
- 歴史遺産型美観地区　一般地区
- 歴史遺産型美観地区　歴史的景観保全修景地区
- 歴史遺産型美観地区　界わい景観整備地区
- 重要界わい景観整備地域
- 沿道型美観地区
- 市街地型美観形成地区
- 沿道型美観形成地区

※　詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

1)　下中邦彦. 日本歴史地名大系. 第27巻 京都市の地名. 平凡社. 1979. p.122
2)　京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻　左京区. 平凡社. 1985. p.327
3)　同上、 p.326
4)　同上、 p.325
5)　同上、 p.327
6)　千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路. 小学館. 1994. p.206
7)　京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻　左京区. 平凡社. 1985. p.325
8)　下中邦彦. 日本歴史地名大系. 第27巻 京都市の地名. 平凡社. 1979. p.122
9)　京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻　左京区. 平凡社. 1985. p.326
10)　同上、 p.325
11)　同上、 p.327
12)　同上、 p.325
13)　同上、 p.326
14)　同上、 p.326
15)　同上、 p.326
16)　下中邦彦. 日本歴史地名大系. 第27巻 京都市の地名. 平凡社. 1979. p.122
17)　京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻　左京区. 平凡社. 1985. p.327
18)　同上、 p.326
19)　下中邦彦. 日本歴史地名大系. 第27巻 京都市の地名. 平凡社. 1979. p.123
20)　同上、 p.72
21)　京都市 編. 史料 京都の歴史. 第8巻　左京区. 平凡社. 1985. p.326
22)　同上、 p.327
23)　同上、 p.327
24)　同上、 p.327
25)　同上、 p.327
26)　佐和 隆研　ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.485-p.486
27)　平凡社. 寺院神社大事典. 1　京都・山城. 平凡社. 1997. p.656-p.657
28)　同上、 p.295
29)　同上、 p.727
30)　同上、 p.411
31)　同上、 p.659-p.660
32)　同上、 p.401-p.402